

【新聞活用学習】 全校 / 中学3年生・国語科

「ことば」を育む授業の創造 ～新聞の教材化の可能性～

指定校2年次 上田市立第二中学校 倉科 宗和

(1) 本年度のN I E活動の概要

前年度は新聞活用教育の目標を「新聞を活用し、日常生活に関わる社会的事象に対する関心を深めるとともに、記事について自分の考えをもち、表現していく態度を養う」として、全校生徒の目に付く場所に新聞コーナーを設けることで、新聞記事に対して生徒が意見を書いたり、見合ったりできる場とすることや、国語科や社会科を中心として単元構成の中に新聞を活用する場面を位置付け、新聞を教材や資料として活用する授業への取り組みを行った。本年度は前年度に引き続き新聞活用教育の目標を「新聞を活用し、日常生活に関わる社会的事象に対する関心を深めるとともに、記事について自分の考えをもち、表現していく態度を養う」とする中で、「表現していく」部分に焦点を当て、教師主体であった新聞コーナーの運営を生徒会活動として取り入れ、紙面上での意見交換を行ったり、国語科の単元構成の中に新聞を活用する場面を位置付け、新聞を教材として扱うことを通して文章の特徴に気づき、その特徴に沿って表現していったりする活動を行った。

(2) 本年度のN I E活動の取り組み状況（4月時点）

本校は現在全校生徒285人、各学年3クラスずつの計9学級で、どのクラスにも30人前後の生徒が在籍している。ほとんどの生徒が日常的に新聞を読んだことがない。読むとしてもテレビ欄や4コマ漫画などを眺めるだけで、新聞の記事を読み、社会的事象や自分たちに身近なことに興味・関心をもつことは少なかった。また、職員の新聞活用も盛んには行われておらず、「新聞記事をどのように扱えばよいかわからない」「新聞を教材として扱うための教材研究を行う時間の余裕がない」というような声もあり、授業の中で新聞を使うことはあまりなかった。

(3) N I E活動のねらい（育てたい力）

本年度の全校研究テーマ「ことばを育む授業の創造～敬愛・窮理・実践のつながりを意識して～」としている。敬愛・窮理・実践とは、学校目標にも掲げられており、豊かな心でさまざまなことに興味をもち（敬愛）、探究的にそれを学び考え抜くことを通して（窮理）、自らのそれを体現していく（実践）姿である。その全校研究テーマにそったN I Eの活動を通して、次のような姿や力を育てていく。

- ・新聞に興味をもち、自主的に新聞を読む態度。
- ・新聞記事を読み、社会的事象について自分の考えをもつ力。
- ・相手の考えを聞いたり見たりし、自分の考えを広げたり深めたりする力。
- ・新聞記事を根拠にし、自分の意見を発表していく力。
- ・新聞記事を資料とし、学習に役立てていこうとする態度。

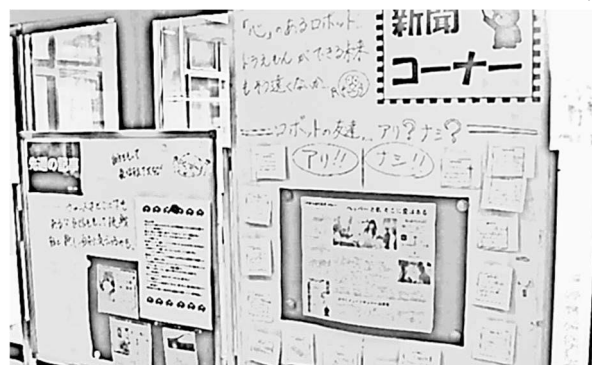
(4) 全校での取り組み

《新聞コーナーの設置》

本校の生徒は、授業で課題に意欲的に取り組んだり、グループでの活動に積極的に取り組んだりする姿がよく見られる。また、木曜日の午後に行われる「めいりんタイム」の生徒会主催の生徒集会では、決まった議題について活発に手を挙げて発言し、意見を出す姿が見られる。しかし、集会の姿を見ていると、それぞれが自分の意見を出すことに終始してしまい、他者の意見を聞き、それらを踏まえて自分の考えを述べたり、他者の意見に賛成や反対したりするなど、話し合いによって思考を深めるものにはなっていなかった。

そこで、昨年度は毎日届く新聞記事の中から生徒にとって関心のもてる内容を話題とし、全校生徒がお互いの考えに触れ、気楽に意見交換をする場を設定したいと考えた。まず、職員が選んだ新聞記事を全校生徒が見えるところ（昇降口から続く廊下）に掲示し、生徒がコメントカードに新聞記事を読んだ感想や意見を書いて張り付けられるようにした。それを1週間掲示した後、その記事について出た生徒の意見をまとめたものと新しい記事を翌週に掲示し、先週の記事にどのような意見が出たのか見られるようにした。

生徒の半数は新聞記事を読むのが初めてであったり、今まで新聞記事を読む機会があっても、それについて意見交換を行う経験がなかったりする生徒が多くいたため、掲示する記事はできるだけ読みやすく、生徒の興味・関心を引くものにしたいと考えた。そこで、新聞記事を選ぶ際には、次の3観点をもとに選ぶことを心掛けた。



【生徒の書いた付箋が日毎に増える掲示板】

- ① 生徒の生活環境に近い場での出来事について書かれている記事であること。
- ② 生徒の生活に関わる話題について書かれている記事であること。
- ③ 同じ中学生のことが話題にあがっている記事であること。

昨年度のこの活動は、生徒が日常生活の身近な事象に興味をもつきっかけとなる場であると共に、その話題についてお互いの意見を交換し合うような場となった。

本年度は、教師主体であったこの新聞コーナーの運営を会誌新聞委員会が引き継ぎ、生徒会活動の一環として行った。各クラスの会誌新聞委員が当番活動として自分たちが気になった記事をまとめ、この新聞コーナーに掲載した。

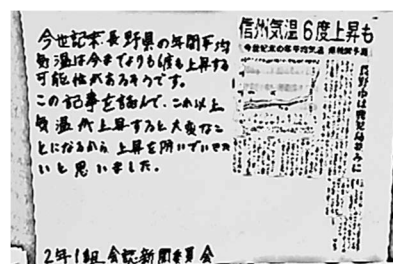
新型コロナウイルスの感染者が半月で倍増し、重症者が440人にも上った記事では、「重症化しやすい高齢者のためにも自分たちが感染対策をしっかりとし、ほかの人に感染させないようにしようと思いました」と感想を書いて掲示、記事に関する自分の考えを表す生徒もいた。さらに、「手洗いうがいをしっかりとしましょう」という言葉も加えられており、関わりのある新聞記事を根拠に示しながら



【生徒が記事を選び掲示した新聞】

ら、保健委員会が毎日行っている手洗いうがいの呼びかけ活動の重要性を訴えることにもつながった。

今世紀末の長野県の年間平均気温が6度上昇する可能性を示唆する記事から、「この記事を読んでこれ以上気温が上昇すると大変なことになるから、気温の上昇を防いでいきたいと思いました」と自分たちの生活と関係付けた生徒がいた。この記事を選んだ2年生は、社会科の地理分野の単元「世界から見た日本の姿」において、地球環境問題を学習している。新聞記事の話題と授業の内容を関連付け、自分たちの問題としてとらえようとする生徒の思いが感じられた。3年生の社会科公民分野の単元「地球社会と私たち」でも同様に、地球温暖化についての学習につながっていくだろう。このように、新聞記事を生徒自らが選び、掲示していくことは、授業の内容と新聞記事に書かれた社会的事象を関連付けさせ、より自分たちに身近な問題としてとらえるための良い場となった。



(5) 公開授業などの活動内容

単元の構想 2学期授業実践

単元名 特設単元「新聞コーナーを盛り上げよう！」(中学3年・国語)

①単元設定の理由と概要

本年度は昨年度に引き続き、全校研究テーマの中にある「ことば」を教科研究の中心に据え、目的に沿って使う「ことば」を使い分けたり、「ことば」に着目して文章の特徴を見つけたりする生徒の姿を目指した授業の工夫を心掛けている。

昨年度は、元号を「令和」に改元した記事と「平成」に改元した記事を読み比べる活動を行った。生徒は、文末表現や主語など文章の中で使われている言葉の違いが、読み手が受ける記事の印象につながっていることを発見した。

1部の新聞の中には、さまざまな文章の種類があることを私たちはあまり意識して読んでいない。しかし、その多様性が新聞を読む面白さにつながっていると考え、そこで、それらを読み比べることでその言葉の使い方や内容の違いに気付き、自分自身の文章表現に生かすことができなかと考え、本単元を設定した。

②単元の目標

- ・社会的事象に興味や関心をもち、新聞の投書や社説などの記事を読み比べ、文章の種類と書き方の違いに気付き、種類に即した文章を書いてみようとしている。(関心・意欲・態度)
- ・スクラップの中の興味のある記事や話題に即した材料を集めることができる。(書くこと)
- ・文体の種類を選択して話題に即した論理の展開を考え、読み手を説得できる表現を工夫することができる。(書くこと)
- ・文末・文頭の表現を工夫したり、資料の引用の仕方を考えたりして、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫することができる。(書くこと)

③単元展開 全7時間扱い

	○学習活動 ・予想される生徒の反応	◇留意する点 ◆評価	時間
1次導入	○新聞コーナーに飾る記事づくりの見通しをもつ。 ・全校に意見や思いを届けられるようにしたい。多くの人に伝えられる手段として新聞を作ろう。 ・新聞はどうやって作ればよいのだろう。 ・2年生の時にも新聞のことを教えてもらったぞ。新聞がどんな記事でできているか聞いてみよう。	◇新聞コーナーの記事を自分たちで考えて掲示することを提案する。 ◆新聞づくりについて興味関心をもち、見通しをもって取り組もうとしている。(興・関)	1
	【単元をつらぬく学習問題】新聞はどのように作ればよいのだろうか。		
2次展開	○新聞のニュースの書き方を理解する。(NIE出前授業) ・新聞に書かれているニュースは起こった事柄を説明する文章であることがわかった。 ・「何が起こったのか」「何がわかったのか」ということを明確に伝えるために、書かれているのだな。 ・5W1Hが明確に書かれている記事はわかりやすいな。 ・他にも記事があるけど、何だろう。	◇ニュースの書き方で工夫していることを紹介してもらう。また構成などの特徴を覚えてもらう。 ◆文体の種類を選択して話題に即した論理の展開を考え、読み手を説得できる表現を工夫することができる。(書くイ)	1
	○『天声人語』と『主張』を読み比べ、その違いからそれぞれの特徴を見つける。(本時) ・同じレジ袋有料化についての記事だけど、何が違うんだろう。 ・随筆文である『天声人語』は、本題とは違う話から入っているように見えるが、論説文である『主張』では、筆者の考えが最初から書かれているぞ。 ・引用した言葉の有無や、具体的な数値の有無に違いがありそう。 ・論説文の『主張』は自分の意見に反対する見方から書き、自分の意見へとつなげているぞ。 ・文末表現に着目すると、随筆文は思いや動作を表す言葉が多く、論説文は「～だ」「～である」などが多いぞ。	◇ニュースなどの報道文、筆者の思いが書かれた随筆文、筆者の意見が明確に書かれた論説文が新聞にはあることを確認する。 ◇「材料」「構成」「表現」を比べる観点とし、読み比べていく。 ◇グループで活動を行い、友が見つけた違いを全員で確認し合いながら行わせる。 ◆文体の種類を選択して話題に即した論理の展開を考え、読み手を説得できる表現を工夫することができる。(書くイ)	1
	○自分たちが選択したスクラップについて、記事を書くための材料を集める。 ・随筆文のように書くなら、自分の体験が必要だな。何か考えよう。 ・論説文のように書くなら、具体的な数値が必要だな。情報を集めよう。	◇パソコンなどを使って、記事を書くための材料を集めさせる。 ◆スクラップの中にある興味のある記事や話題に即した材料を集めることができる。(書くア)	1
	○ニュース、『天声人語』、『主張』の書き方を参考にしながら、スクラップした記事についてまとめる。 ・僕は具体的な数値を入れて記事についての意見を強く主張しながら論説文のように書いていこう。 ・私は始めに本題とは違う話題を提示するような随筆文の書き方で書いてみよう。 ・僕は、ニュースをもう一度まとめなおして報道文を書こう。 →特徴を捉え、表現を工夫しながら、新聞記事を書き表している。【目標を達成した姿】	◇テーマは新聞のスクラップから探すよう促す。 ◇学習した特徴を生かして「構想シート」を使いながら文章を書くよう促す。 ◆文末・文頭の表現を工夫したり、資料の引用の仕方を考えたりして、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫することができる。(書くウ)	2
3次終末	○班で作った新聞をクラスの中で見合い、評価し合う。 ・他の班の人はどのように書いているのだろう。見てみたい。 ・他の人の書き方を参考に、もう一度自分が書いた記事を見直してみよう。 ・この単元で学んだ文章の特徴は、意見文を書くときにも使えそうだな。ぜひ使ってみよう。	◇他の班のものを参考に、自分の書いた記事を見返させる。 ◆文末・文頭の表現を工夫したり、資料の引用の仕方を考えたりして、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫することができる。(書くウ)	1

【働かせる見方・考え方】 複数の文章を比較する視点 違いからその特徴を考える思考力

④本時案

○本時の主眼

「新聞はどのような記事からできているのだろうか」について、新聞にはさまざまな記事があることを知った生徒が、文章に使われている材料や展開の仕方、表現の相違に着目し、コラム的な記事と論説的な記事を読み比べることを通して、それぞれの記事の特徴を理解することができる。

→願う生徒の姿（例）

- ・コラム的に書かれている文章は一見話題と関係ないような話から始めることで読者を引き付けていることや、論説的に書かれている文章は具体的な数値を入れて書くことで説得力が増すようにしていることがわかった。

○指導上の留意点

- ・読む量が多くならないように、使用する新聞記事は抜粋して扱う。
- ・他の人の意見を聞いて考えが深まるように、グループで話し合いながら追究できるようにする。

○展開

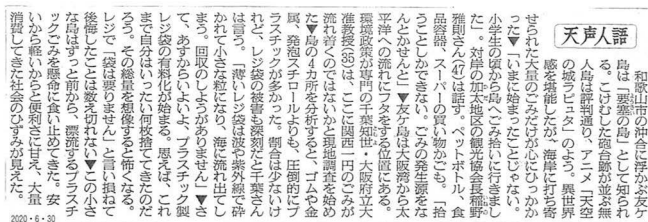
段階	学習活動	・予想される生徒の反応	◇教師の指導・支援 評価	時間	備考
導入	1 学習課題を設定し、本時の追究の見通しをもつ。	【学習問題】新聞はどのような記事からできているのだろうか ・前時はニュース記事がどんな材料や構成で書かれているかわかったぞ。 ・ニュース記事と、別に意見が書かれている記事との違いは何だろう。 ・どうやら書いてある材料や文章構成などに違いが見つかりそうだ。確かめよう。	◇前時の学習を想起させながら、新聞の中には筆者の意見が書かれている文章が2種類あることを確認する。 ◇最初にいくつか違いを簡単に見つけさせ全体で3つの観点を共有する。	5分	新聞記事 フラッシュカード
	【学習課題】「材料」「構成」「表現」を観点に記事を読み比べ、その特徴を調べよう。				
展開	2 グループで工夫やその効果を検証する。	・『天声人語』は、最初に見聞話題と関係なさそうな話から始めているけど、『主張』は最初から話題を提示しているな。 ・『主張』は、具体的な数値を用いることで説得力を高めているのではないか。 ・『天声人語』は起承転結で書かれているが、『主張』は相手の反論を予想した書き方を本論に入れた三段構成だぞ。 ・同じ意見も文章の種類によって材料や構成、表現の違いがある。	◇比べる部分には、マーカーで線を引いていくなど、視覚的にもわかりやすくするよう指導する。 ◇2年次の学習も想起させつつ違い（工夫）を見つけながら、それによってどのような効果があるのかも考えさせる。 ◇2種類の文章の特徴を全体で共有させる。	30分	ワークシート
	3 授業の振り返りをする。	【本時の評価規準】 ●2種類の記事の違いを見つけ、それぞれの記事の特徴を捉えることができる。（ワークシートの記述）	◇時間があるようなら指名し、全体で振り返りを共有する。 ◇新聞にはニュースと意見や考えを伝える記事があることや、意見や考えの書き方には特徴があることを再確認する。	15分	

(6) 生徒の反応

◎授業の様子

第1次における単元の導入部分では、「新聞コーナーを盛り上げるにはどうすればよいか」という教師の発問に対し、生徒は自分たちで記事を掲示することを発案した。さらには、ただ新聞記事を掲示するのではなく、その記事に対する自分たちの考えも一緒に載せたものを掲示することを思い付き、生徒たちは新聞がどのような記事からできているのかを知りたいと思うようになった。

そこで第2次では、N I E出前授業により新聞記事が5W1Hで構成されていることに気付いた。また、新聞には5W1Hで構成された報道文の他にも違う記事が載っていることに気付いた。その記事が、どのような構成で書かれているのか疑問に思った生徒に対し、同じ話題について書かれているが異なる様式で書かれた2種類の記事を用意した。以下がその随筆的に書かれた『天声人語』（朝日新聞）と論説的に書かれた『主張』（産経新聞）である。



用意した新聞記事
【2020年6月30日朝日新聞】

生徒は、2年次でも行った新聞記事の読み比べを想起し、「材料」「構成」「表現」の3つの観点から、2種類の文章を読み比べることを通してそれぞれの文章の特徴を見つけだし、まとめていった。

【生徒の本時のワークシート】



用意した新聞記事
【2020年7月1日産経新聞】

新聞コーナーを盛り上げるワークシート	三年二組										
新聞はどのような記事でできているのだろうか。	「材料」「表現」「構成」を新聞記事と読み比べ、特徴を調べよう。										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>材料</th> <th>表現</th> <th>構成</th> <th>随筆文</th> <th>論説文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> レジ袋有料化 レジ袋有料化は、環境問題の解決策の一つとして、多くの国で導入されている。日本でも、2020年7月1日からレジ袋の有料化が義務づけられる。これは、プラスチックごみの削減と資源の有効利用を目的としている。レジ袋の有料化は、消費者の意識を高め、環境に優しい行動を促す効果がある。また、レジ袋の有料化は、レジ袋の廃棄物の削減にもつながる。レジ袋の有料化は、環境問題の解決策として、多くの国で導入されている。日本でも、2020年7月1日からレジ袋の有料化が義務づけられる。これは、プラスチックごみの削減と資源の有効利用を目的としている。レジ袋の有料化は、消費者の意識を高め、環境に優しい行動を促す効果がある。また、レジ袋の有料化は、レジ袋の廃棄物の削減にもつながる。 </td> <td> レジ袋有料化 レジ袋有料化は、環境問題の解決策の一つとして、多くの国で導入されている。日本でも、2020年7月1日からレジ袋の有料化が義務づけられる。これは、プラスチックごみの削減と資源の有効利用を目的としている。レジ袋の有料化は、消費者の意識を高め、環境に優しい行動を促す効果がある。また、レジ袋の有料化は、レジ袋の廃棄物の削減にもつながる。レジ袋の有料化は、環境問題の解決策として、多くの国で導入されている。日本でも、2020年7月1日からレジ袋の有料化が義務づけられる。これは、プラスチックごみの削減と資源の有効利用を目的としている。レジ袋の有料化は、消費者の意識を高め、環境に優しい行動を促す効果がある。また、レジ袋の有料化は、レジ袋の廃棄物の削減にもつながる。 </td> <td> レジ袋有料化 レジ袋有料化は、環境問題の解決策の一つとして、多くの国で導入されている。日本でも、2020年7月1日からレジ袋の有料化が義務づけられる。これは、プラスチックごみの削減と資源の有効利用を目的としている。レジ袋の有料化は、消費者の意識を高め、環境に優しい行動を促す効果がある。また、レジ袋の有料化は、レジ袋の廃棄物の削減にもつながる。レジ袋の有料化は、環境問題の解決策として、多くの国で導入されている。日本でも、2020年7月1日からレジ袋の有料化が義務づけられる。これは、プラスチックごみの削減と資源の有効利用を目的としている。レジ袋の有料化は、消費者の意識を高め、環境に優しい行動を促す効果がある。また、レジ袋の有料化は、レジ袋の廃棄物の削減にもつながる。 </td> <td> レジ袋有料化 レジ袋有料化は、環境問題の解決策の一つとして、多くの国で導入されている。日本でも、2020年7月1日からレジ袋の有料化が義務づけられる。これは、プラスチックごみの削減と資源の有効利用を目的としている。レジ袋の有料化は、消費者の意識を高め、環境に優しい行動を促す効果がある。また、レジ袋の有料化は、レジ袋の廃棄物の削減にもつながる。レジ袋の有料化は、環境問題の解決策として、多くの国で導入されている。日本でも、2020年7月1日からレジ袋の有料化が義務づけられる。これは、プラスチックごみの削減と資源の有効利用を目的としている。レジ袋の有料化は、消費者の意識を高め、環境に優しい行動を促す効果がある。また、レジ袋の有料化は、レジ袋の廃棄物の削減にもつながる。 </td> <td> レジ袋有料化 レジ袋有料化は、環境問題の解決策の一つとして、多くの国で導入されている。日本でも、2020年7月1日からレジ袋の有料化が義務づけられる。これは、プラスチックごみの削減と資源の有効利用を目的としている。レジ袋の有料化は、消費者の意識を高め、環境に優しい行動を促す効果がある。また、レジ袋の有料化は、レジ袋の廃棄物の削減にもつながる。レジ袋の有料化は、環境問題の解決策として、多くの国で導入されている。日本でも、2020年7月1日からレジ袋の有料化が義務づけられる。これは、プラスチックごみの削減と資源の有効利用を目的としている。レジ袋の有料化は、消費者の意識を高め、環境に優しい行動を促す効果がある。また、レジ袋の有料化は、レジ袋の廃棄物の削減にもつながる。 </td> </tr> </tbody> </table>	材料	表現	構成	随筆文	論説文	レジ袋有料化 レジ袋有料化は、環境問題の解決策の一つとして、多くの国で導入されている。日本でも、2020年7月1日からレジ袋の有料化が義務づけられる。これは、プラスチックごみの削減と資源の有効利用を目的としている。レジ袋の有料化は、消費者の意識を高め、環境に優しい行動を促す効果がある。また、レジ袋の有料化は、レジ袋の廃棄物の削減にもつながる。レジ袋の有料化は、環境問題の解決策として、多くの国で導入されている。日本でも、2020年7月1日からレジ袋の有料化が義務づけられる。これは、プラスチックごみの削減と資源の有効利用を目的としている。レジ袋の有料化は、消費者の意識を高め、環境に優しい行動を促す効果がある。また、レジ袋の有料化は、レジ袋の廃棄物の削減にもつながる。	レジ袋有料化 レジ袋有料化は、環境問題の解決策の一つとして、多くの国で導入されている。日本でも、2020年7月1日からレジ袋の有料化が義務づけられる。これは、プラスチックごみの削減と資源の有効利用を目的としている。レジ袋の有料化は、消費者の意識を高め、環境に優しい行動を促す効果がある。また、レジ袋の有料化は、レジ袋の廃棄物の削減にもつながる。レジ袋の有料化は、環境問題の解決策として、多くの国で導入されている。日本でも、2020年7月1日からレジ袋の有料化が義務づけられる。これは、プラスチックごみの削減と資源の有効利用を目的としている。レジ袋の有料化は、消費者の意識を高め、環境に優しい行動を促す効果がある。また、レジ袋の有料化は、レジ袋の廃棄物の削減にもつながる。	レジ袋有料化 レジ袋有料化は、環境問題の解決策の一つとして、多くの国で導入されている。日本でも、2020年7月1日からレジ袋の有料化が義務づけられる。これは、プラスチックごみの削減と資源の有効利用を目的としている。レジ袋の有料化は、消費者の意識を高め、環境に優しい行動を促す効果がある。また、レジ袋の有料化は、レジ袋の廃棄物の削減にもつながる。レジ袋の有料化は、環境問題の解決策として、多くの国で導入されている。日本でも、2020年7月1日からレジ袋の有料化が義務づけられる。これは、プラスチックごみの削減と資源の有効利用を目的としている。レジ袋の有料化は、消費者の意識を高め、環境に優しい行動を促す効果がある。また、レジ袋の有料化は、レジ袋の廃棄物の削減にもつながる。	レジ袋有料化 レジ袋有料化は、環境問題の解決策の一つとして、多くの国で導入されている。日本でも、2020年7月1日からレジ袋の有料化が義務づけられる。これは、プラスチックごみの削減と資源の有効利用を目的としている。レジ袋の有料化は、消費者の意識を高め、環境に優しい行動を促す効果がある。また、レジ袋の有料化は、レジ袋の廃棄物の削減にもつながる。レジ袋の有料化は、環境問題の解決策として、多くの国で導入されている。日本でも、2020年7月1日からレジ袋の有料化が義務づけられる。これは、プラスチックごみの削減と資源の有効利用を目的としている。レジ袋の有料化は、消費者の意識を高め、環境に優しい行動を促す効果がある。また、レジ袋の有料化は、レジ袋の廃棄物の削減にもつながる。	レジ袋有料化 レジ袋有料化は、環境問題の解決策の一つとして、多くの国で導入されている。日本でも、2020年7月1日からレジ袋の有料化が義務づけられる。これは、プラスチックごみの削減と資源の有効利用を目的としている。レジ袋の有料化は、消費者の意識を高め、環境に優しい行動を促す効果がある。また、レジ袋の有料化は、レジ袋の廃棄物の削減にもつながる。レジ袋の有料化は、環境問題の解決策として、多くの国で導入されている。日本でも、2020年7月1日からレジ袋の有料化が義務づけられる。これは、プラスチックごみの削減と資源の有効利用を目的としている。レジ袋の有料化は、消費者の意識を高め、環境に優しい行動を促す効果がある。また、レジ袋の有料化は、レジ袋の廃棄物の削減にもつながる。	レジ袋有料化 レジ袋有料化は、環境問題の解決策の一つとして、多くの国で導入されている。日本でも、2020年7月1日からレジ袋の有料化が義務づけられる。これは、プラスチックごみの削減と資源の有効利用を目的としている。レジ袋の有料化は、消費者の意識を高め、環境に優しい行動を促す効果がある。また、レジ袋の有料化は、レジ袋の廃棄物の削減にもつながる。レジ袋の有料化は、環境問題の解決策として、多くの国で導入されている。日本でも、2020年7月1日からレジ袋の有料化が義務づけられる。これは、プラスチックごみの削減と資源の有効利用を目的としている。レジ袋の有料化は、消費者の意識を高め、環境に優しい行動を促す効果がある。また、レジ袋の有料化は、レジ袋の廃棄物の削減にもつながる。
材料	表現	構成	随筆文	論説文							
レジ袋有料化 レジ袋有料化は、環境問題の解決策の一つとして、多くの国で導入されている。日本でも、2020年7月1日からレジ袋の有料化が義務づけられる。これは、プラスチックごみの削減と資源の有効利用を目的としている。レジ袋の有料化は、消費者の意識を高め、環境に優しい行動を促す効果がある。また、レジ袋の有料化は、レジ袋の廃棄物の削減にもつながる。レジ袋の有料化は、環境問題の解決策として、多くの国で導入されている。日本でも、2020年7月1日からレジ袋の有料化が義務づけられる。これは、プラスチックごみの削減と資源の有効利用を目的としている。レジ袋の有料化は、消費者の意識を高め、環境に優しい行動を促す効果がある。また、レジ袋の有料化は、レジ袋の廃棄物の削減にもつながる。	レジ袋有料化 レジ袋有料化は、環境問題の解決策の一つとして、多くの国で導入されている。日本でも、2020年7月1日からレジ袋の有料化が義務づけられる。これは、プラスチックごみの削減と資源の有効利用を目的としている。レジ袋の有料化は、消費者の意識を高め、環境に優しい行動を促す効果がある。また、レジ袋の有料化は、レジ袋の廃棄物の削減にもつながる。レジ袋の有料化は、環境問題の解決策として、多くの国で導入されている。日本でも、2020年7月1日からレジ袋の有料化が義務づけられる。これは、プラスチックごみの削減と資源の有効利用を目的としている。レジ袋の有料化は、消費者の意識を高め、環境に優しい行動を促す効果がある。また、レジ袋の有料化は、レジ袋の廃棄物の削減にもつながる。	レジ袋有料化 レジ袋有料化は、環境問題の解決策の一つとして、多くの国で導入されている。日本でも、2020年7月1日からレジ袋の有料化が義務づけられる。これは、プラスチックごみの削減と資源の有効利用を目的としている。レジ袋の有料化は、消費者の意識を高め、環境に優しい行動を促す効果がある。また、レジ袋の有料化は、レジ袋の廃棄物の削減にもつながる。レジ袋の有料化は、環境問題の解決策として、多くの国で導入されている。日本でも、2020年7月1日からレジ袋の有料化が義務づけられる。これは、プラスチックごみの削減と資源の有効利用を目的としている。レジ袋の有料化は、消費者の意識を高め、環境に優しい行動を促す効果がある。また、レジ袋の有料化は、レジ袋の廃棄物の削減にもつながる。	レジ袋有料化 レジ袋有料化は、環境問題の解決策の一つとして、多くの国で導入されている。日本でも、2020年7月1日からレジ袋の有料化が義務づけられる。これは、プラスチックごみの削減と資源の有効利用を目的としている。レジ袋の有料化は、消費者の意識を高め、環境に優しい行動を促す効果がある。また、レジ袋の有料化は、レジ袋の廃棄物の削減にもつながる。レジ袋の有料化は、環境問題の解決策として、多くの国で導入されている。日本でも、2020年7月1日からレジ袋の有料化が義務づけられる。これは、プラスチックごみの削減と資源の有効利用を目的としている。レジ袋の有料化は、消費者の意識を高め、環境に優しい行動を促す効果がある。また、レジ袋の有料化は、レジ袋の廃棄物の削減にもつながる。	レジ袋有料化 レジ袋有料化は、環境問題の解決策の一つとして、多くの国で導入されている。日本でも、2020年7月1日からレジ袋の有料化が義務づけられる。これは、プラスチックごみの削減と資源の有効利用を目的としている。レジ袋の有料化は、消費者の意識を高め、環境に優しい行動を促す効果がある。また、レジ袋の有料化は、レジ袋の廃棄物の削減にもつながる。レジ袋の有料化は、環境問題の解決策として、多くの国で導入されている。日本でも、2020年7月1日からレジ袋の有料化が義務づけられる。これは、プラスチックごみの削減と資源の有効利用を目的としている。レジ袋の有料化は、消費者の意識を高め、環境に優しい行動を促す効果がある。また、レジ袋の有料化は、レジ袋の廃棄物の削減にもつながる。							

【「材料」と「表現」に着目した生徒の振り返り】

2つの記事を読み比べて同じ話題の記事でも使う材料や表現が違っていると読む人のとらえ方も変わることが分かった。「怖くなる」などの感情を入れると随筆になり、「だ」や「である」といった強く言い切る意見を入れると論説文になる。

第3次では、グループ活動として「報道文」「論説文」「随筆文」のそれぞれの特徴を踏まえ、新聞コーナーに掲示する文章を書いた。それまでに読み溜めた新聞記事のスクラップの中から興味のある記事を選び、その記事を「報道文」「論説文」「随筆文」の書き方で、それぞれまとめなおした文章である。

(7) 成果と課題

本年度は昨年度に引き続き新聞活用教育の目標を「新聞を活用し、日常生活に関わる社会的事象に対する関心を深めるとともに、記事について自分の考えをもち、表現していく態度を養う」としてNIE活動を行った。

全校生徒に向けて行った新聞コーナーの設置では、生徒会活動として位置付けることによって、生徒が新聞を通して身の回りの社会的事象を知り、読んだ記事から自分の意見や考えを発信する姿が見られた。また、扱う記事が日々の授業の内容や既習事項と重なることによって、新聞記事で知る社会的事象が自分たちの身近にあることをより深く感じることにつながることがわかった。しかし、昨年同様に生徒同士が考えを表現し合うには紙面上では限界があるので、新聞を起点としてディベートやパネルディスカッションなどの対話的な活動につなげるなど、紙面上では表現できなかった生徒の考えや意見を学級や学年を越えて表現できる場を設定することが重要であることがわかった。

新聞の教材化という面では、表現という部分に重点を置いて単元を構成した。国語科で新聞を活用した実践を行ったが、新聞が補助教材や資料として有効に使われていたことが生徒の姿からも分かった。新聞をもとに学んだ文章の種類やその特徴を活用しながら、今後の学習活動や学校行事、生徒会活動などの様々な場で表現できる態度を育てていきたい。